



▲1867年、佐賀藩の代表としてパリ万博に出席する一団。後列左より藤山文一、深川長右衛門、前列左より小出千之助、佐野常民、野中元右衛門(「仏国行路記」所載)



▲博愛社設立許可の図(日本赤十字社蔵/画像提供:佐野常民記念館) 西南戦争の舞台となっている熊本にて、有栖川総督への直訴がなされた瞬間

京都の町も救っている 冴えわたる「博覧会男」

佐野はパリとウィーンの2回の博覧会に代表として参加し「博覧会男」との異名を持っていた。国内初の勧業博覧会を開いたのも佐野。そんな折、東京遷都により京都は天皇が離れ、衰退していた。そんな京都に佐野は路面電車を走らせたり、共通チケットやガイドブックを作ったり、新たな観光スタイルを樹立して、京都の街は見事復活。まさに「博覧会男」の面目躍如。

泣きの常民 5つの涙の訳

佐野がしばしば人前で涙を流した事は有名だが、中でも有名な「5つの涙」というのがある。それは博愛社設立の願書許可の際、精煉方の二代目田中儀右衛門の惨殺の際、パリでの野中元右衛門の客死の際、帆船購入に当たり賄賂の中傷で解任の際、そして鍋島直正公の死の際。特に直正公からの恩義にはよく涙していたとの話も。そんな男気あふれる涙が美しい。

真相は永遠の闇の中 佐野常民生涯最大の謎

江戸の伊東玄朴の蘭学塾「象先堂」で勉学に励んでいた時のこと。塾にはツーフ・ハルマというオランダ語の辞書があり、塾生はこれを奪い合うように勉強していた。ある日佐野はこれを持ち出し、何と30両(約360~390万円)で買入れてしまったのだ。当然塾は破門され、佐賀に戻ることになるが、佐野は後年、その真相について決して話す事はなかった。誰にも話せぬ余程の訳があったのだろう。



▲伊東玄朴も佐賀神廟の出身(「伊東玄朴伝」所載)

人材は藩を救う 佐野の名スカウト術

「象先堂」を破門された佐野は江戸から佐賀に戻る際、京都で「からくり儀右衛門」として有名な田中久重親子4人の技術者をスカウトし佐賀に連れて帰る。当時の佐賀藩は二重鎖国をとっており、他藩の人間を雇うなんてもってのほか。佐野は何とかこれを説き伏せ、結果佐賀藩では蒸気機関の開発など、飛躍的な科学進歩を遂げることになる。籍に関係なく、優れた人材が情勢を助けるのは今も昔も変わらない。



▲「三重津海軍所之図」(鍋島報効会蔵) 佐野が監督を務めた海軍教練や修船の施設。日本初の実用蒸気船「凌風丸」もここで完成した



▲佐野がスカウトした田中久重(左)と息子の儀右衛門(中央)、そして石黒寅次(右)(「佐賀藩海軍史」所載)



▲日本初の蒸気車のひな形(鍋島報効会蔵)



▲佐野常民48歳頃の肖像(日本赤十字社蔵/画像提供:佐野常民記念館)

日本赤十字の創設者

早津江村(現佐賀市川副町早津江地区)に佐賀藩士・下村三郎左衛門の五男として生まれる。9歳の時に佐賀城下水ヶ江の佐賀藩医、佐野常徴の養子となり、医者を目指すための勉強を始める。

13歳の時に藩校弘道館に入学。以降、江戸の古賀侗庵、佐賀の松尾塾、京都の広瀬元恭の時習堂、大阪の緒方洪庵の通塾、紀伊で華岡青洲の春林軒塾、江戸で伊東玄朴の象先堂塾に入門、幾多の留学体験で幅広い学識を得た。

31歳の時に佐賀藩が設置した理化学研究所、精煉方の主任となり、日本初の蒸気機関のひな形等を完成。長崎では幕府の海軍伝習に参加し、後に佐賀の三重津海軍伝習所の監督となり、国産初の実用蒸気船、凌風丸を完成させる。

1867年、パリ万博に参加する佐賀藩の代表として渡欧。そこで赤十字の存在を知り、深い感銘を受ける。10年後に西南戦争が勃発すると、日本赤十字の前身となる博愛社を設立、敵味方に関係なく負傷者の救護活動を行った。その設立には幾多の反対があったが、佐野はその信念を貫き、有栖川宮織仁親王への直訴を持って実現に至った。

他にも日本海軍創設の提言や灯台の建設、日本美術の保護団体の創設など、多彩に活躍。日本はまるで佐野に引っ張られるように近代化へ突き進む。

【概略年表】

1822	文政5年	1	12月28日、佐賀郡早津江に生まれる
1831	天保2年	10	佐野常徴の養子となる
1835	天保6年	14	藩校弘道館に入学する
1837	天保8年	16	江戸の古賀侗庵、京都の広瀬元恭など、各地へ留学
1848	嘉永元年	27	大阪の緒方洪庵の通塾で学ぶ
1849	嘉永2年	28	江戸で伊東玄朴の象先堂塾に入門し、塾頭となる
1851	嘉永4年	30	長崎で塾を開く
1853	嘉永6年	32	佐賀藩精煉方主任となる
1855	安政2年	34	長崎で海軍伝習開始/国産初の蒸気機関車模型を完成
1858	安政5年	37	三重津海軍所の監督となる
1865	慶応元年	44	三重津造船所で蒸気船「凌風丸」完成
1867	慶応3年	46	パリ万博参加のため渡欧、赤十字社のことを知る
1872	明治5年	51	博覧会御用掛に就任し、日本初の博覧会を湯島聖堂で開催
1873	明治6年	52	ウィーン万国博覧会事務副総裁に就任して、ウィーンに赴く
1877	明治10年	56	大給恒らと博愛社を創立/第1回内国勧業博を開く
1879	明治12年	58	日本美術の海外流出を防ぐために、龍池会(日本美術協会)発足
1882	明治15年	61	元老院議長に就任
1887	明治20年	66	博愛社を日本赤十字社と改称、初代社長となる
1888	明治21年	67	枢密顧問官に就任/磐梯山噴火の救援活動を行う
1902	明治35年	81	12月7日、東京の自宅で死去

あなたにとって佐野常民とは？

野心なき ヒューマニスト

佐野常民記念館 名誉館長 福岡博 さん



彼は幕末佐賀の賢人の中で、唯一の理系人間なんです。江藤や大隈らとも歳が離れており、兄貴分として相談役になっていたのではないのでしょうか。彼には野心というものがなく、お金にもきれいでした。創設した赤十字の活動は全てボランティアです。ヒューマニズムなんて概念がなかった時代、法律や科学だけでは駄目、博愛の精神がなければ、現代的な考え方を持っていた人でした。そんな彼の人生を機会があればドラマ化してみたいですね。

佐野常民が主人公の小説

「火城」 佐野がまだ佐賀藩士だった頃に日本初の蒸気船を作り上げるまでを綴った時代小説。その涙もろさや奇想天外な発想など、佐野の人物像がイキイキと伝わる。 高橋克彦 著/角川書店刊/650円(税込)



佐野常民

さの つねたみ



Sano Tsunetami

何でもやります元祖マルチ人間。 その芯にある揺るぎなき博愛精神。

- 《人物像》
- 涙もろい純真さ
 - ジャンルを問わない多才さ
 - 叩かれても曲らない芯の強さ

佐野常民足跡探訪コース【約2時間】(移動約60分+観光散策約60分)

モデルコース 佐賀藩の発展に数々の功績を残した佐野の軌跡をめぐり行く

<p>徒歩で約10分</p> <p>佐野常民生誕地</p> <p>地図▶P34 C-5</p> <p>佐野が9才で佐野家の養子に行くまで暮らした地。大正15年に記念碑が建てられ、その功績が顕彰されている。</p> <p>② 佐賀市川副町大字早津江津 446-1 ④ 9:00~19:00(閉月曜(祝日の場合は翌日)、年末年始) ⑥ 展示室300円 ⑦ 0952-40-7110</p>	<p>徒歩で約5分</p> <p>佐野常民記念館</p> <p>地図▶P34 C-5</p> <p>遺品や関連資料の展示など、佐野の功績をわかりやすく学べる施設。体験学習施設としての機能もあわせもっている。</p> <p>② 佐賀市川副町大字早津江津 446-1 ④ 9:00~19:00(閉月曜(祝日の場合は翌日)、年末年始) ⑥ 展示室300円 ⑦ 0952-34-9455</p>	<p>車で約30分</p> <p>三重津海軍所跡(佐野記念公園)</p> <p>地図▶P34 C-5</p> <p>佐賀藩が1858年に設立し、佐野が監督を務めた蒸気船等の船の修理・造船施設跡。現在世界遺産登録に向けて申請中。</p> <p>② 佐賀市水ヶ江2-9-25 ④ 佐賀市観光振興課 0952-40-7110</p>	<p>車で約5分</p> <p>通った藩校 弘道館跡</p> <p>地図▶P35 G-8</p> <p>佐野が養子に出された藩医、佐野常民の屋敷跡。周辺は大隈重信生家など、当時の雰囲気残り、町歩きにいい。</p>	<p>車で約10分</p> <p>精煉方跡</p> <p>地図▶P35 F-7</p> <p>佐野が主任を務めた、幕末佐賀藩の理化学研究所。数多くの実験、研究が行われ、今は当時の思ひ空き地だけが残る。</p> <p>② 佐賀市多布施3-4-5 ④ 佐賀市観光振興課 0952-40-7110</p>
--	---	---	--	---